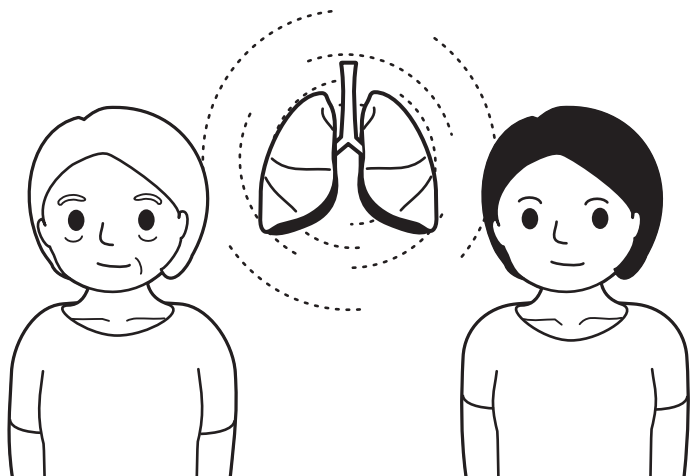


# 結核の基礎知識

正しい知識があれば 恐れることはありません



**宣 言**  
明るい笑顔  
すぐ返事  
伝える元気

かちどき薬品 ホームページ  
げんき君 健康に関する情報がいっぱい  
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ

## 結核は過去の病気ではありません

日本では50年前まで、結核は死亡原因第1位で「亡国病」と言われるほど、まん延していました。戦後、適切な予防・治療法が開発されてからは急速に減り、一時は「結核の流行は終わった」などと言われましたが、近年再び結核発生率が増加に転じています。

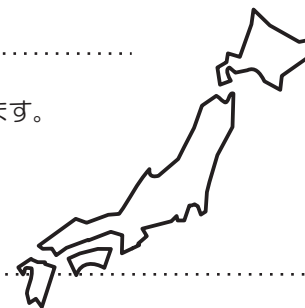
感染率と死亡率が高い感染症です



世界の総人口の3分の1の人が感染している

アジア・アフリカに多く、年間140万人が命を失っています。

現代も先進諸国の中で日本は発生率が高い



放っておくと肺の組織が破壊され肺全体から全身に広がることもある

→呼吸困難や臓器不全などを起こし生命の危機を招く

多いのは肺結核ですが、他の臓器に起こることもあります。

# どうして今結核が多いの？

現代は結核の危険性に対して関心が低い人が多く、過去に感染している人が近年発病したり、新たに感染する人も増えていることなどが原因です。

## 以前から結核に感染していた人が発病

近年、発病する人の65%が60歳以上です。この年齢層の人の多くは、戦前～終戦直後に感染しており、加齢などに伴って発病する人が増えています。

## 働き盛りの世代の診断の遅れ

毎日多くの人と接する機会がある、働き盛りの世代の診断の遅れにより感染者が増えると、次世代に結核を残すことにつながります。

## 若年層に免疫を持たない人が多い

現在の若い世代の人は、ほとんどが結核未感染で免疫がないため、新たに感染する恐れがあります。また、集団感染や院内感染も増加しています。

## 薬の効かない結核菌の出現

治療薬に対する抵抗性がついてしまい、薬が効かなくなる『多剤耐性結核』（たざいたいせいけっかく）が増加しており、深刻な問題になっています。

# 結核は感染する病気

結核の人が咳やくしゃみをした時に排出された「結核菌」を直接吸い込むと、感染します。近くに結核の人がいなくても、空気中に菌が漂っていることもあります。

感染した人から排出された菌を吸い込んでしまうと感染する

くうきかんせん      ひまつかくかんせん  
空気感染      飛沫核感染

狭くて換気が悪い場所では結核菌が長く滞留するため、感染源になる人が目の前にいなくても、知らないうちに感染してしまうこともある



手を握る、同じ食器を使う、などで感染することはありません。

# 症状は？

肺結核の場合、初期の症状は風邪によく似ていて見過ごされがちです。

早期発見  
早期受診  
が大事

- 咳が出る
- 痰が出る
- 全身がだるい、倦怠感
- 食欲がない
- 体重が減ってきた
- 37℃前後の微熱が続いている
- 就寝中に大量の汗をかく



このような症状が2週間以上続いている場合は、結核かも知れません。

身近な人や周囲の人にうつさないためにも、出来るだけ早めに受診しましょう！



風邪をこじらせた？たばこの吸い過ぎ？などと勘違いして、気付くのが遅くならないよう注意が必要です。

# 感染＝すぐ発病するとは限りません

感染した結核菌が活動し、咳や痰など体の症状が現れるのが「発病」です。

## 人によって違う「感染から発病まで」



# 特に発病しやすい人は？

結核にかかりやすい、様々な条件があります。

- ・ 高齢の方
- ・ 幼いお子さん
- ・ 糖尿病、胃潰瘍かいようなどの病気がある
- ・ 胃の切除をしたことがある
- ・ 喘息や膠原病こうげんびょうの薬（ステロイド剤）を服用している
- ・ 抗がん剤を服用している
- ・ 関節リウマチの薬（TNF $\alpha$ 阻害剤）を服用している
- ・ HIVに感染している
- ・ 結核にかかったことのある人が身近にいる
- ・ ストレスが多い、不規則な生活、喫煙

# 診断と治療は

薬で治療が  
可能です

診断は… X線撮影や菌の検査などを行い診断します。

治療は…ほとんどが薬物療法で、きちんと薬を服用すれば6ヶ月ほどで完治します。

重症の時や、周囲の人への感染を防ぐために、入院が必要な場合もあります。

※途中で薬の服用をやめてしまうと、薬の効かない菌（多剤耐性結核菌）になることがあります。症状が治まっても結核菌は生き残っている場合もありますので、必ず医師や薬剤師の指示に従って服用しましょう。

# 予防するには？



## 感染を防ぐ

◎結核予防のBCG接種は、小児の予防接種として世界で広く用いられています。小児には効果があり、生後早い月齢での接種が薦められています。予防効果が続くのは十数年と言われ、成人に対しての効果は高くありません。



◎通常、住居や衣服などを消毒する必要はなく、換気を十分に行えば感染の危険性を減らせます。また、結核菌は紫外線にあると2～3時間で死滅すると言われています。

◎結核菌を吸い込まなければ、感染するのを防げます。病院などで使われる医療用のN95マスクは有効ですが、通常のマスクでは効果は期待出来ません。

## 発病を防ぐ

たとえ感染してしまっても、免疫力を高めることで発病を予防出来ます



睡眠時間を十分とり、  
疲れをためない



バランスのよい食事で  
きちんと栄養を摂る



適度に運動をする



体調がすぐれない時は  
人が多い場所を避ける



不安に思うことがあったら、最寄りの保健所や医師に早めに相談しましょう。結核治療には、各自治体より公費による医療費の補助も行われています。